九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 **No.386**

2023（令和5）年 2月 1日（水）発行

■ **はらまち九条の会** は、戦争放棄の憲法９条を守り、永久に「戦争をしない国・日本」であることを願い、「鈴木安蔵の出身地の九条の会」を誇りに活動する自由な市民の会です。支持政党や宗教を問わず、何の拘束もなく、匿名でも入会できます。■結成は2005年12月。会員は南相馬市原町区を中心に362名。 ■会費は年千円。隔月で会報を発行しています。

◀本会のシール(デザイン：朝倉悠三さん)　■ご入会申し込みは事務局員へ！

新年のあいさつ　はらまち九条の会 会長 平田慶肇（けいいち）

今年もよろしくお願いいたします

令和5年も早や2月となりました。

皆さまにはお変わりなく、健やかにお過ごしのことと思います。

安倍政権、菅政権から岸田政権に代わって、よりよい変化を期待しておりましたが、大事な問題を国会での議論もなしに次々に閣議決定という“ズルイやり方”で施行するという、極めて危険な内閣であると思います。

今度の防衛費増額、増税問題もその通り、“敵基地反撃能力”とは正に戦争そのものを意味する憲法九条に違反する行為です。これからの動向をよく見守って行く必要があります。

今年もよろしくお願いいたします。

大軍拡に狂う岸田文雄政権へ
平和のための、九条の名言を！

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。

「ユネスコ憲章」

過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのであります。

ヴァイツゼッカー

一人を殺せば殺人者、一〇〇万人殺せば英雄だ。

チャップリン

一度戦争が起これば問題はもはや正邪曲直善悪の争いではなく、徹頭徹尾力の争い強弱の争いであって、八紘一宇や東洋永遠の平和、聖戦だとかいってみても、それはことごとく空虚な偽善である。

斎藤隆夫

他の国も憲法で戦争を放棄してみたらいいのです。みんなが軍隊を持たなくなったら、戦争はなくなります。それを実現するには、どこかの国が絶対的な信念をもって舵取りをしなければダメです。私は、それを日本に期待しているのです。

ベアテ・シロタ・ゴードン

九条の非暴力主義は、世界に誇れる日本の英知です。どんな名目の戦争も一切しない。何より、平和を人権としてとらえている。私たちの憲法は世界の英知を引き継ぐとともに、日本の素晴らしい英知の結晶なんです。

伊藤真

そもそも憲法というのは、夢でいいんです。みんなで夢に近づける、それでいいんです。夢を改正することはありません。

永六輔

徴兵は命かけても阻むべし　母、祖母、おみな
牢に　満つるとも

石井百代

にほんの　ひのまる　なだて　あかい　かえらぬ
おらがむすこの　ちであかい

おはん

<早乙女勝元編『平和のための名言集』大和書房より>

1月21日（土）、武藤類子さんらの実行委員会主催で三春町まほら大ホールを会場に、「小出裕章さんの講演会」が開かれました。当日入場出来なかったのですが、YouTubeで講演会を視聴することができました。

元京都大学原子炉実験所助教 **小出裕章さん講演会** 講演要旨

原発汚染水は なぜ流してはならないか

私は（1949年生まれ）、原子力の平和利用に夢を抱いて、1968年に東北大学工学部原子工学科に入学しました。でもその後研究を重ねるほど、原子力はとても人間が制御できるものではないと考えるようになり、原子力発電をやめさせるために原子力の研究を続けてきました。

危険な原発は過疎地に建設

広島の原子爆弾の核分裂生成物はわずか800g、それで大都市ひとつが壊滅した。現在主流の100万kw級の原子力発電所1基が、1年間運転して生成されるそれは1トン。原発とは大量の放射性物質を生みながら、それをため込んでいく機械といえる。国も電力会社もその危険性をわかっているからこそ、全国17カ所57基の原発は、東京などの大都市部には作らず、遠くの過疎地に押し付ける一方で、電力の恩恵は大都会が受けるという不公平・不公正の上に成り立っている。それはすべて自民党が政権を取っている時に認可し推進されたもの。そして12年前の2011年、福島第一原発で本当に事故が起こってしまった。

フクシマ事故で放出された放射能は、広島原爆の168発分で、その8割が太平洋に、2割が日本国内に流れ込み雪や雨で降下した。当時政府は「原子力緊急事態宣言」を発令したが、それは今も解除できない。また法律では「放射線管理区域」は毎時0.6マイクロシーベルトを越える場所で放射線業務従事者だけが立ち入れるが、飲食もトイレも寝ることも禁止で、作業環境の放射線測定が義務付けられる。定期的な健康診断を受け、もし1年平均で5ミリシーベルトを越える被曝をし白血病などになれば労災認定される。

ところが、福島県内の広い地域が実は「放射線管理区域」に該当するようになってしまった。地域も人ももう棄てられているのです。

人間は原子力を制御できない

そんな外界と遮断されなければならない「放射線管理区域」の福島第一原発敷地内に、地下水が流れ込み続けていること自体が大きな問題であり、今回の汚染水問題の前提もここにある。一時は税金300億円をかけた「凍土壁」で遮断しようとしたが、できるわけがなかった。

今回海洋放出されようとしている汚染水は、処理水と呼ばれているが実際は7割以上が処理途上水です。トリチウムは水素の同位体であり、トリチウム水は言わば水そのものであるため、決して除去できない。それを薄めて放出すれば安全だとしているが、それは放射性物質がそもそも毒だということがわかっているから薄めようとしているわけで、そんなものを決して海に流してはいけない。放射能を消す力は人間にも自然にもないのです。

海洋放出は一番安易な方策

海洋放出以外にも現実的な方策はたくさんあり、大型タンクの設置、モルタル固化、地下への圧入、海の深層に注入などが考えられるが、海に流すのが一番安易な方法です。

今回、海洋放出にこだわる理由は一つ。青森県六ケ所村の再処理工場は、何度も操業開始が延期され今に至っているが、もし運転を始めれば1年間に800トンの使用済み核燃料を処理し、毎年18ペタベクレルものトリチウムの海洋放出を前提にしている。もしも福島のトリチウム汚染水を海に流してはいけないことになれば、再処理工場の運転もできないことになり、日本の原子力システムは崩壊する。だからどんなに漁民が反対しようと世界の国々が抗議しようとも、海洋放出を強行しなければならないわけです。

すべて終了までは50年以上

フクシマ事故後10年経った時点でトリチウムは1920兆ベクレル、そのうちタンクには780兆ベクレルあるという。海洋放出を2023年に始めて、毎年22兆ベクレルずつ薄めながら海に棄て続けるとすれば、トリチウムの減衰を考えても2046年までかかる。そのうえこれから発生するトリチウム水も海に流すとなると、すべてを終えるまでには50年以上かかり、私も、事故に責任のあった人々も、事故被害者の多くももう死んでいることになる。

大人には原発事故の責任がある

こんなに大変なことなのに、誰も責任を取ろうとしないし、マスコミや教育を使って原発事故を忘れさせようとしています。私たち大人には、フクシマ事故を起こした責任がある。未来の子どもたちを守るためにも、原発を動かしてはならず、汚染水も海に流させてはならないのです。そのためにどうか皆様のお力をお貸しください。

（文責 事務局山崎健一）

○小出先生講演会は本会の後援で、2013年6月22日に南相馬市民会館でも開催されています。約千人が入場し、その時の講演要旨は本会報No.217（本会HPに）に掲載。講演内容は①国は原発事故の情報を出さなかった、②「放射線管理区域」に相当する南相馬市、③国や東電のだれも責任を問われない、④こどもたちを被曝から守るにはなど。事故12年後現在も状況は好転していません。